

調査の概要

- 調査の目的
 - 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - 教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立し、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- 調査の対象学年 小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年、中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年
- 調査の内容
 - ①教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)
 - ・主として「知識」に関する問題【国語A、算数・数学A】
 - ・主として「活用」に関する問題【国語B、算数・数学B】
 - ・主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題【理科】
 - ②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査・児童生徒に対する調査、学校に対する調査
- 調査の方式 抽出調査及び希望利用方式(抽出調査の抽出率は約30%)
- 4月17日に抽出調査を実施した学校・児童生徒数【小学校】大阪府：135校10,331人(13.2%)【中学校】大阪府：142校21,581人(30.1%)

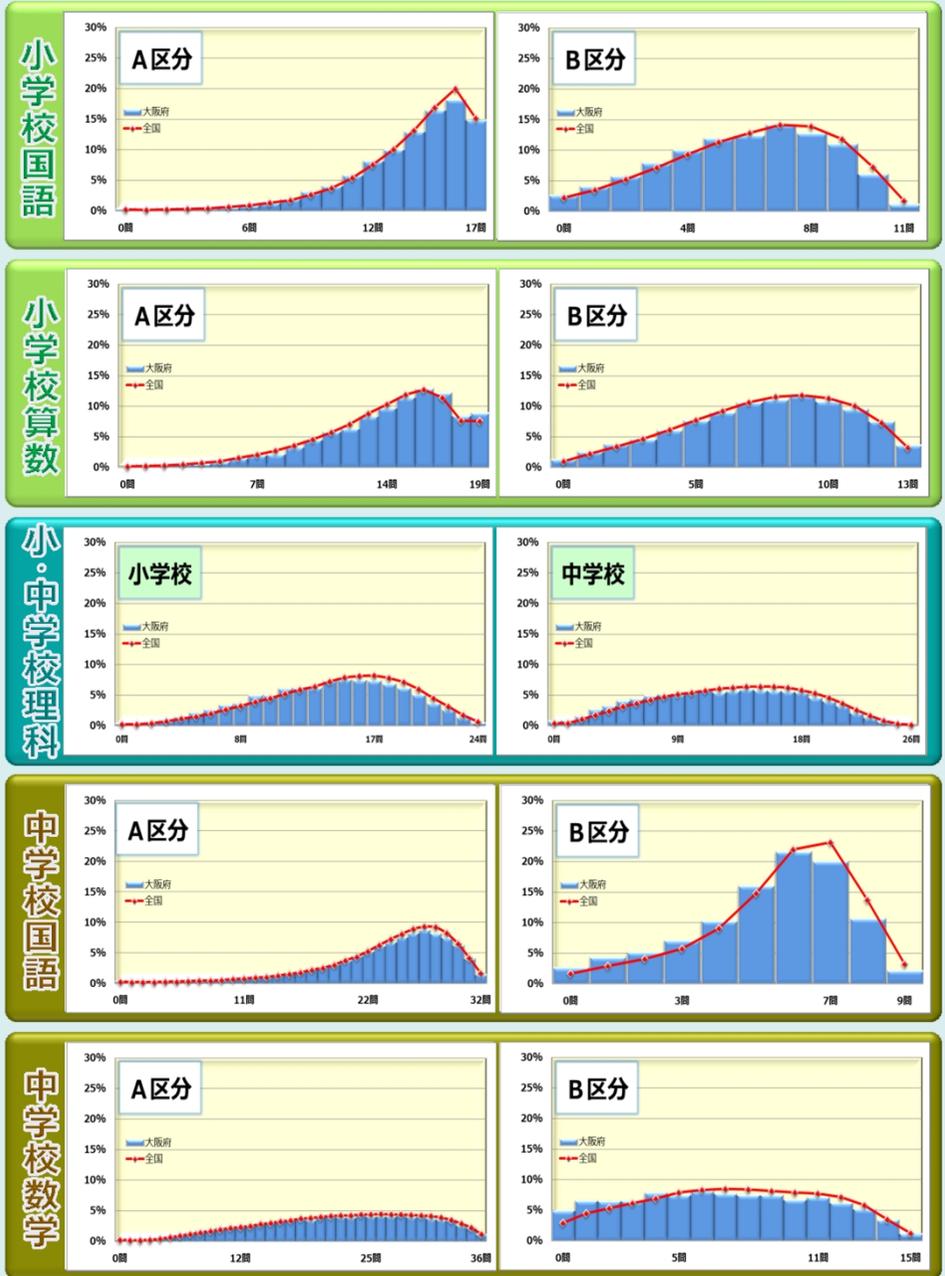
調査及び結果の特徴

小学校においては、概ね向上傾向が続いており、ほぼ全国平均に並んだ状況であるが、国語B区分において課題がみられる。中学校においては、H22年度に続いて向上傾向がみられ、全国平均との差はさらに縮小しつつあるものの、依然としてその差は大きい。新たに実施された理科においては、小中学校とも大きな課題がみられる。
 ◆平成24年度調査は抽出調査であるため、平均正答率の数値は、次の表に示す範囲で幅があることを踏まえ、成果、課題等を判断する必要がある。

(%)	小国A	小国B	小算A	小算B	小理	中国A	中国B	中数A	中数B	中理
大阪府	79.8	81.3	52.5	54.4	73.3	75.1	57.3	59.5	56.9	58.8
全国	81.4	81.7	55.4	55.8	73.1	73.5	58.7	59.1	60.8	61.1

- ◆今年度、新たに実施した理科については、観察・実験の結果などを整理・分析した上で、解釈・考察し、説明することなどに課題が見られる。
- ◆従来から実施している、国語、算数・数学における主な結果としては、記述式問題を中心に課題が見られる。

正答数分布 (横軸：正答数・縦軸：割合)



校種・教科・区分別正答率／対全国比経年比較

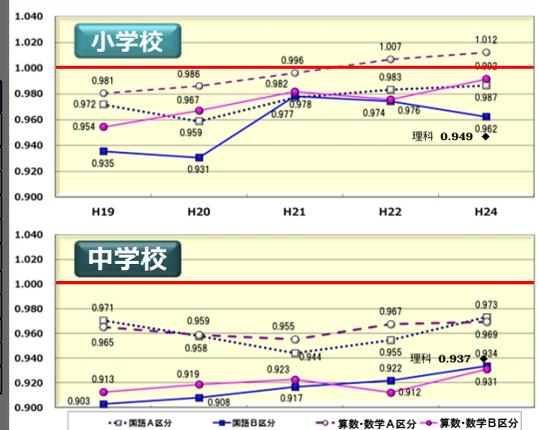
※数値は、「大阪府平均正答率÷全国平均正答率」で算出し、その結果について4年間の推移をまとめたもの

		H19		H20		H21		H22		H24	
		大阪府	全国								
小国	A区分	79.4	81.7	62.7	65.4	68.3	69.9	81.9	83.3	80.5	81.6
	B区分	58.0	62.0	47.0	50.5	49.4	50.5	75.8	77.8	53.5	55.6
小算	A区分	80.5	82.1	71.2	72.2	78.4	78.7	74.7	74.2	74.2	73.3
	B区分	60.7	63.6	49.9	51.6	53.8	54.8	48.1	49.3	58.4	58.9
小理	A区分	-	-	-	-	-	-	-	-	-	57.8
	B区分	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60.9
中国	A区分	79.2	81.6	70.5	73.6	72.7	77.0	71.7	75.1	73.1	75.1
	B区分	65.0	72.0	55.2	60.8	68.3	74.5	60.2	65.3	59.1	63.3
中数	A区分	69.4	71.9	60.5	63.1	59.9	62.7	62.5	64.6	60.2	62.1
	B区分	55.3	60.6	45.2	49.2	52.5	56.9	39.5	43.3	45.9	49.3
中理	A区分	-	-	-	-	-	-	-	-	-	47.8
	B区分	-	-	-	-	-	-	-	-	-	51.0

校種・教科・区分別無解答率／対全国差経年比較

※「大阪府平均無解答率 - 全国平均無解答率」の結果について

		大阪府				全国				差「大阪府-全国」の数値						
		H19	H20	H21	H22	H19	H20	H21	H22	H19	H20	H21	H22			
小国	A	2.7	12.5	10.2	2.8	3.4	2.0	10.9	9.9	2.6	3.0	0.7	1.6	0.3	0.2	0.4
	B	11.6	14.3	12.9	5.0	7.3	8.7	12.3	12.1	4.2	6.6	2.9	2.0	0.8	0.8	0.7
小算	A	1.5	3.2	2.2	2.6	2.2	1.1	3.0	2.1	2.4	2.3	0.4	0.2	0.1	0.2	-0.1
	B	7.4	7.1	6.9	7.0	4.7	5.9	6.0	6.2	6.2	4.6	1.5	1.1	0.7	0.8	0.1
中国	A	4.6	5.2	4.8	3.8	4.5	3.5	3.8	3.3	2.7	3.5	1.1	1.4	1.5	1.1	1.0
	B	8.5	12.9	9.0	9.8	7.3	5.2	8.7	5.6	6.8	4.8	3.3	4.2	3.4	3.0	2.5
中数	A	6.0	8.7	6.9	8.0	3.6	4.1	6.6	5.1	6.3	2.7	1.9	2.1	1.8	1.7	0.9
	B	19.5	17.4	13.0	24.8	16.1	14.4	13.4	9.7	19.3	13.1	5.1	4.0	3.3	5.5	3.0
中理	A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-



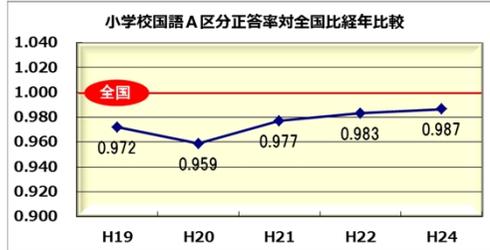
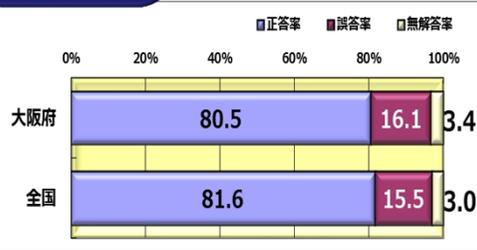
小学校国語

A

区分問題

平均正答率は80.5%であり8割を超えてはいるものの、各設問を個別に見ると継続的な課題が見られるものがあり、引き続き定着を図る取り組みを進める必要がある

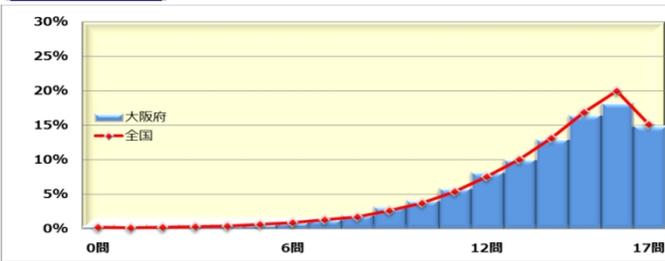
正答率比較



具体的な課題

- ねらいを明確にして質問すること(話し手の話の内容を聞き、書いた質問のねらいを適切に説明したものを選択する)
- 目的に応じ、情報を関係付けながら話し合うこと
(収集した情報を関係付けながら話し合い、整理した図から共通する内容を取り出して書く)
- 必要となる事柄を整理して簡潔に書くこと(新聞の報道記事のリードに必要な事柄を整理して一文にまとめて書く)
- 慣用語の意味を正しく理解すること(日常生活で使われている慣用語を集め、それらの意味を適切に捉える「話がはずむ」)

正答数分布



正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆全国、大阪府とも16問を頂点にした右よりの山型を描いている。
- ◆大阪府は8~12問の間では、全国よりも分布の割合が高く、14~17問の間では、全国よりも分布の割合が低い。
- ◆正答数分布を正答数により1/3ずつ低位層、中位層、高位層の3層に分け、分布の割合を全国を1とした割合で大阪府の様子を比較してみると、低位層は1.221、中位層は1.108、高位層は0.975となり、全国に比べ中位層から低位層に向かうにしたがって、その割合が高くなる。
- ◆5年間の変化を見ると、高位層はやや増加の傾向にあるものの、減少傾向にあった低位層が再び増加している。



平均正答率は全国を1.1ポイント下回った

◆全国の平均正答率が81.6%であるのに対し、大阪府の平均正答率は80.5%であり、1.1ポイント全国を下回った。

対全国比はゆるやかな増加傾向にある

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とした場合の大阪府の平均正答率の割合で比較した。平成24年度調査は抽出調査であるため、単純に経年比較することは難しいが、この5年間で平均正答率は全国の状況に近づきつつあることがわかる。

無解答率比較

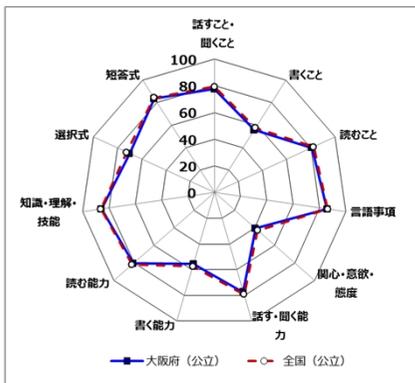


無解答率は全国の状況を0.4ポイント上回った

◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成21年度は0.3ポイント、平成22年度は0.2ポイントと前回まで減少傾向にあったが、今年度は0.4ポイントとわずかながら全国との差が広がった。

領域・観点・問題形式別

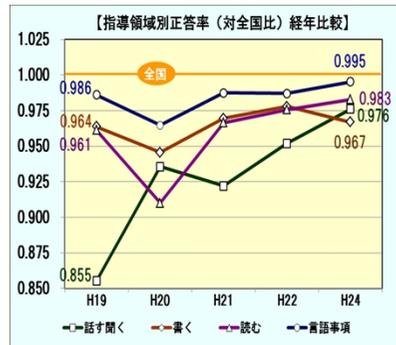
平成24年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「書くこと」「書く能力」「関心・意欲・態度」が低い値を示している。



◆平成24年度調査が抽出調査であるため、単純に経年比較することは難しいが、全国、大阪府とも「書くこと」「書く能力」「関心・意欲・態度」が低い値を示している。

小学校国語

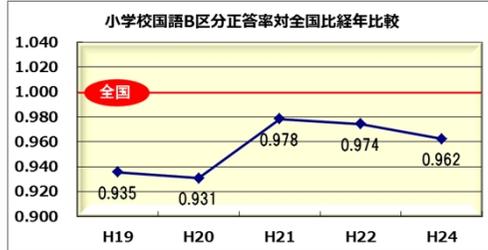
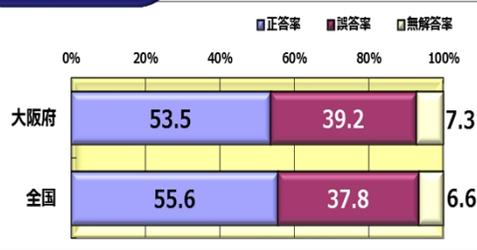
B

区分問題

(大阪府立小・中学校)

平均正答率は53.5%であり、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりすることに課題が見られる。

正答率比較



平均正答率は全国を2.1ポイント下回った

◆全国の平均正答率が55.6%であるのに対し、大阪府の平均正答率は53.5%であり、2.1ポイント全国を下回った。

対全国比には大きな変化は見られない

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とした場合の大阪府の平均正答率の割合で比較した。平成24年度調査は抽出調査であるため、単純に経年比較することは難しいが、今年度は0.962となり、前回の0.974をやや下回った。

無解答率比較

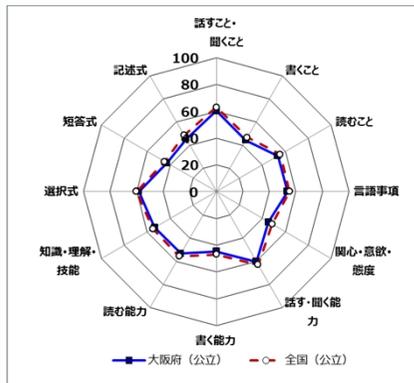


無解答率は全国の状況を0.7ポイント上回った

◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成19年度は2.9ポイント、平成20年度は2.0ポイント上回っていたのに対し、平成21年度と平成22年度はともに0.8ポイント、今年度は0.7ポイントにとどまっており、全国との差は縮まる傾向にある。

領域・観点・問題形式別

平成24年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

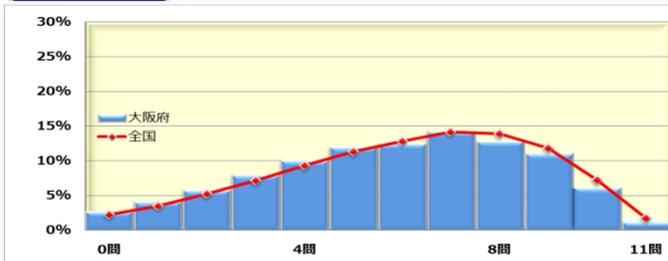
◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「書くこと」「書く能力」「関心・意欲・態度」「短答式」「記述式」が低い値を示している。

具体的な課題

- グラフや表に含まれる情報を正確に読み取った上で、質問をしたい内容を明確にすること(「部活動に対する満足度」の内容を読み取った上で、中学生に対する質問を発表するように記述する)
- 話し合いの目的を再確認し、計画的に話し合いを進めること(話し合いを進める司会の役割を適切に説明したものを選択する)
- 目的に応じ、雑誌や読んだ記事の特徴を捉えること(記事の特徴の説明として適切なものを取り出して書く)
- 雑誌を読み、複数の記事をつなぎ合わせたり、編集者の意図を推論したりしながら、自分の考えをまとめること(二つの記事に書かれている内容を結び付けながら読み、理由となる事実を基にして自分の考えを記述する)

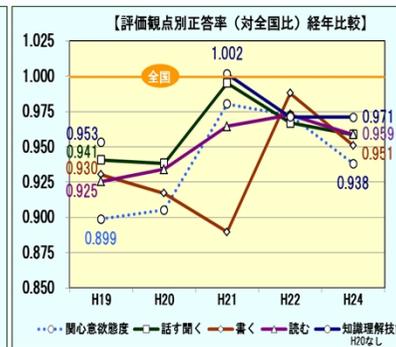
正答数分布



正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

◆全国、大阪府とも7問を頂点にした右よりの山型を描いている。
◆大阪府は0~5問の間では、全国よりも分布の割合が高く、8~11問の間では、全国よりも分布の割合が低い。

◆正答数分布を正答数により1/3ずつ低位層、中位層、高位層の3層に分け、分布の割合を全国を1とした割合で大阪府の様子を比較してみると、低位層は1.137、中位層は1.022、高位層は0.899となり、全国に比べ低位層の割合が高い。
◆5年間の変化を見ると、低位層の割合は減少傾向にある。



◆平成24年度調査が抽出調査であるため、単純に経年比較することは難しいが、全国、大阪府とも「書くこと」「書く能力」「関心・意欲・態度」「短答式」「記述式」が低い値を示している。

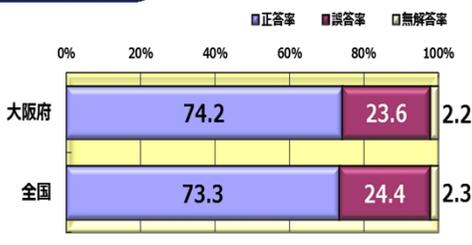
小学校算数

A

区分問題

平均正答率は74.2%であり、各設問を個別に見ると継続的な課題が見られるものがあり、引き続き定着を図る取り組みを進める必要がある

正答率比較



平均正答率は全国を0.9ポイント上回った

◆ 全国平均正答率が73.3%であるのに対し、大阪府の平均正答率は74.2%であり、0.9ポイント全国を上回った。

全国を上回り、ゆるやかな増加傾向にある

◆ 各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国平均正答率を1とした場合の大阪府の平均正答率の割合で比較した。平成24年度調査は抽出調査であるため、単純に経年比較することは難しいが、5年間の推移を見てみると平成19年度から値は一貫して増加しており、前回から全国平均を上回っている。

無解答率比較



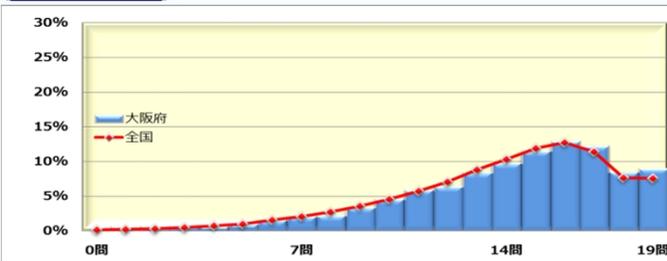
今年度初めて全国を下回る

◆ 無解答率の全国との差を経年比較すると、平成19年度から減少傾向にあり、今年度0.1ポイント全国を下回る結果になった。

具体的な課題

- 場面と図を関連付けて、二つの数量の関係を理解すること(二つのテープの長さの関係を表している図を選ぶ)
- 1に当たる大きさを求めるために、除法が用いられることを理解すること
(赤テープの長さが白テープの長さの0.6倍に当たるとき、白テープの長さを求める式を書く)
- 三角形の底辺と高さの関係を理解すること(三角形の底辺に対応する高さを選ぶ)
- 百分率の意味について理解すること
(犬を飼っている8人が学級全体の人数の25%に当たるとき、学級全体の人数を求める式と答えを書く)

正答数分布



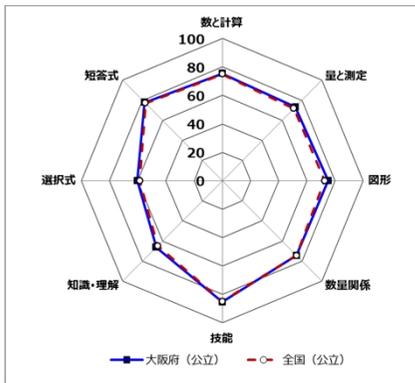
正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆ 全国、大阪府とも16問を頂点とした右よりの山型を描いている。
- ◆ 大阪府は12~15問の間では、全国よりも分布の割合が低く、17~20問の間では、全国よりも分布の割合が高い。
- ◆ 正答数分布を正答数により1/3ずつ低位層、中位層、高位層の3層に分け、分布の割合を全国を1とした割合で大阪府の様子を比較してみると、低位層は0.976、中位層は0.946、高位層は1.032となり、全国に比べ高位層の割合が高い。
- ◆ 5年間の変化を見ると、低・中位層の割合は減少傾向が見られ、高位層では増加傾向が見られる。



領域・観点・問題形式別

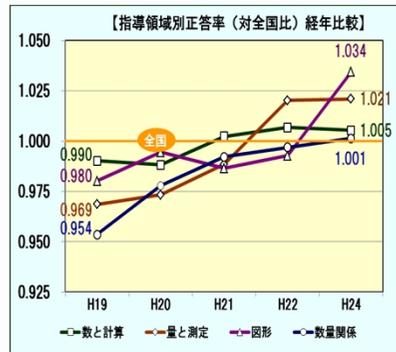
平成24年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆ レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆ 今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「技能」が高く、「選択式」「知識・理解」でやや低い値を示している。



◆ 平成24年度調査が抽出調査であるため、単純に経年比較することは難しいが、全国平均正答率を1とした場合の大阪府の平均正答率の割合で比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。

小学校算数

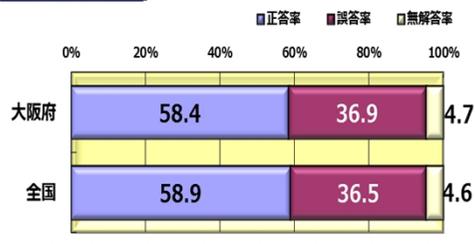
B

区分問題

(大阪府公立小学校4校)

平均正答率は58.4%であり、筋道立てて考え、説明することに課題が見られる

正答率比較



平均正答率は全国を0.5ポイント下回った

◆ 全国平均正答率が58.9%であるのに対し、大阪府の平均正答率は58.4%であり、0.5ポイント全国を下回った。

対全国比はゆるやかな増加傾向にある

◆ 各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国平均正答率を1とした場合の大阪府の平均正答率の割合で比較した。平成24年度調査は抽出調査であるため、単純に経年比較することは難しいが、この5年間で平均正答率は全国状況に近づきつつあることがわかる。

無解答率比較



無解答率の全国との差は0.1ポイントに縮まった

◆ 無解答率の全国との差を経年比較すると、全国を上回った値は平成19年度は1.5ポイント、平成20年度は1.1ポイントあったものが、今年度は0.1ポイントと全国との差は縮まる傾向にある。

具体的な課題

- 方法や理由を言葉や数を用いて記述する際、場面の状況や問題の条件に基づいて、必要な事柄を過不足なく記述すること(二つの支払い方を解釈し、一方の支払いの方が、おつりの硬貨の枚数が少なくなるわけを書く)
- 必要な情報を用いて、指定された高さにすることができるかどうかを判断し、その理由を記述すること(跳び箱を70cmの高さにすることができるかどうかを判断し、そのわけを書く)
- 表から適切な数値を取り出して割合の大小を判断し、その理由を記述すること(表から、合計の人数を基にした乗れる人数の割合は、男女どちらの方が大きいかを判断し、そのわけを書く)

正答数分布



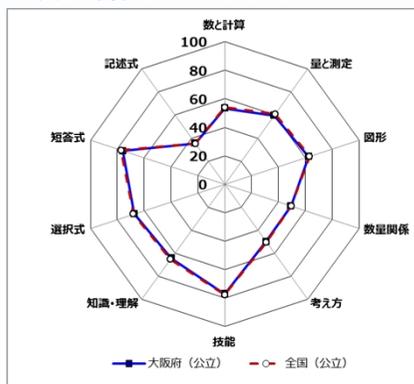
正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆ 全国、大阪府とも9問を頂点にしたやや右よりの山型を描いている。
- ◆ 大阪府は0~2問の間と12問13問では、全国よりも分布の割合が高く、6~11問の間では、全国よりも分布の割合が低い。
- ◆ 正答数分布を正答数により1/3ずつ低位層、中位層、高位層の3層に分け、分布の割合を全国を1とした割合で大阪府の様子と比較してみると、低位層は1.064、中位層は0.986、高位層は0.987となり、全国に比べ低位層の割合が高い。
- ◆ 5年間の変化を見ると、低位層の割合は減少傾向、高位層の割合はやや増加の傾向にある。



領域・観点・問題形式別

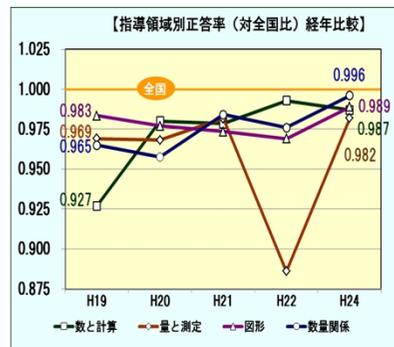
平成24年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆ レーダーチャートの描くラインは、全国との状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆ 今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「数と計算」「数量関係」「数学的な考え方」「記述式」の項目が低い値を示している。



◆ 平成24年度調査が抽出調査であるため、単純に経年比較することは難しいが、全国平均正答率を1とした場合の大阪府の平均正答率の割合で比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。

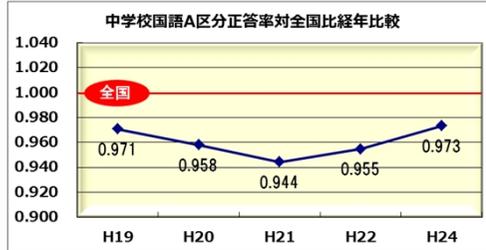
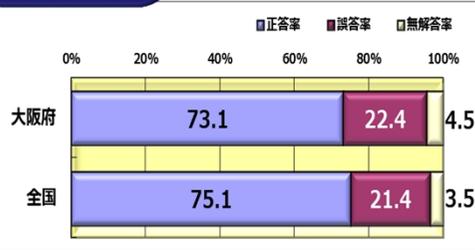
中学校国語

A

区分問題 (大阪府知事選出選挙区)

平均正答率は73.1%であり、各設問を個別に見ると継続的な課題が見られるものがあり、引き続き定着を図る取り組みを進める必要がある

正答率比較



平均正答率は全国を2.0ポイント下回った

◆全国の平均正答率が75.1%であるのに対し、大阪府の平均正答率は73.1%であり、2.0ポイント全国を下回った。

対全国比には大きな変化は見られない

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とした場合の大阪府の平均正答率の割合で比較した。平成24年度調査は抽出調査であるため、単純に経年比較することは難しいが、今年度は0.973となり、前回の0.955をやや上回った。

無解答率比較

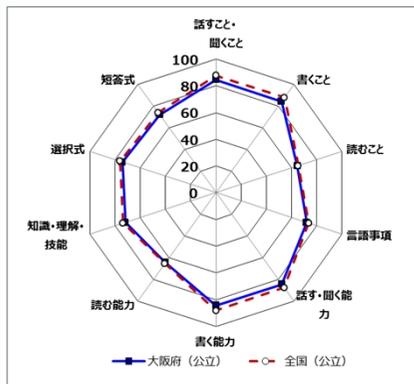


無解答率は全国の状況を1.0ポイント上回った

◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成19年度は1.1ポイント、平成20年度は1.4ポイント、平成21年度は1.5ポイント上回っており、全国との差が開く傾向にあった。しかし平成22年度は1.1ポイント、今年度は1.0ポイント上回ったにとどまり、全国との差はやや縮まる傾向にある。

領域・観点・問題形式別

平成24年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

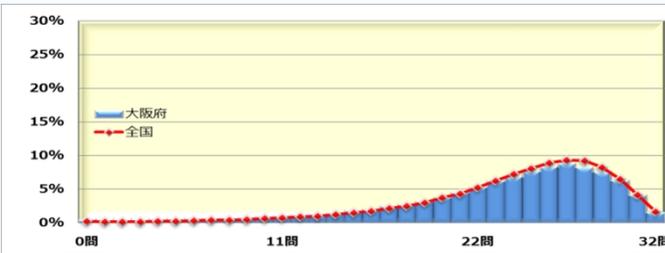
◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、大阪府・全国ともに「読むこと」「読む能力」が低い値を示している。

具体的な課題

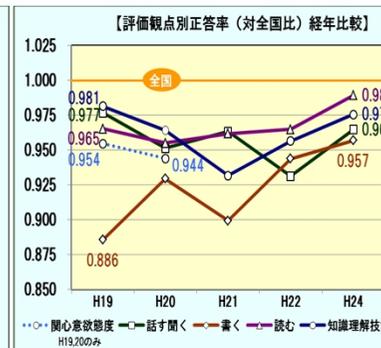
- 話し言葉と書き言葉との違いを理解し適切に使うこと (スピーチをする際に、聞き手や場面に応じた話し言葉にする)
- 必要な情報が相手に伝わるように説明すること (文鎮について説明する一文を書き加える)
- 目的に応じて必要な情報を読み取ること (取扱い絵表示の内容に加え、気をつけなければならない最も適切なものを選ぶ)

正答数分布



正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆全国、大阪府とも27問を頂点にした右よりのなだらかな山型を描いている。
- ◆24～30問の間では、全国よりも分布の割合が低く、22問以下では割合が高くなっている。
- ◆正答数分布を正答数により1/3ずつ低位層、中位層、高位層の3層に分け、分布の割合を全国を1とした割合で大阪府の様子と比較してみると、低位層は1.482、中位層は1.110、高位層は0.947となり、全国に比べ中位層から低位層に向かうにしたがって、その割合が高くなる。
- ◆5年間の変化を見ると、高位層の割合が低く、中・低位層の割合が高い傾向が続いている。

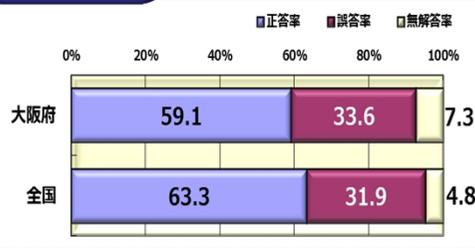


◆平成24年度調査が抽出調査であるため、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1とした場合の大阪府の平均正答率の割合で比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。

中学校国語 B 区分問題

平均正答率は59.1%であり、相手の発言を注意して聞き、自分の考えを書くことなどに課題がある

正答率比較



平均正答率は全国を4.2ポイント下回った

◆全国の平均正答率が63.3%であるのに対し、大阪府の平均正答率は59.1%であり、4.2ポイント全国を下回った。

対全国比はゆるやかな増加傾向にある

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とした場合の大阪府の平均正答率の割合で比較した。平成24年度調査は抽出調査であるため、単純に経年比較することは難しいが、この5年間の推移を見てみると平成19年度から値は一貫して増加している。

無解答率比較

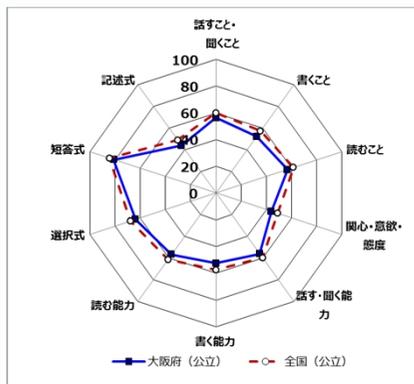


無解答率は全国の状況を2.5ポイント上回った

◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成19年度は3.3ポイント、平成20年度は4.2ポイント全国を上回っていたのに対し、今年度は2.5ポイント上回っており、その差はやや小さくなった。また、平成20年度からの4年間の推移を見ると差が縮まる傾向が見られる。

領域・観点・問題形式別

平成24年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

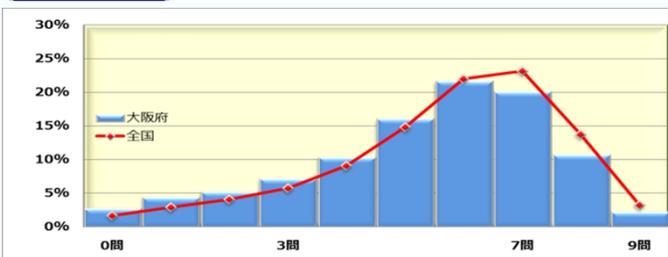
◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ同じ傾向を示しているが、大阪府は全ての項目において全国を下回っている。

◆今回の出題内容においては、「書くこと」「書く能力」「国語への関心・意欲・態度」「記述式」の項目で全国との差が大きい。

具体的な課題

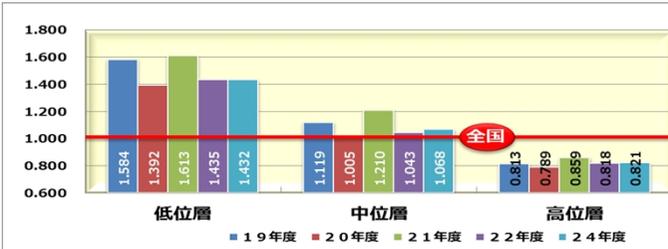
- 相手の発言を注意して聞き、自分の考えを書くこと
(「美しい日本語とは」をテーマにした対談を読み、これからどんな言葉の使い方をするのか具体的な言葉の例を挙げて書く)
- 資料の情報から必要な内容を選び、伝えたい事柄が明確に伝わるように書くこと(祖母向けの説明書の一部を書く)
- 物語の場面の展開を捉えること(物語に描かれている季節を選択する)
- 物語の内容や登場人物の言動の意味などを捉え、自分の考えを書くこと(朗読の仕方の工夫とその理由を書く)

正答数分布



正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆全国は7問を頂点にし、大阪府は6問を頂点にしたやや右よりの山型を描いている。
- ◆大阪府は0～5問の間では、全国よりも分布の割合が高く、7～9問の間では、全国よりも分布の割合がかなり低い。
- ◆正答数分布を正答数により1/3ずつ低位層、中位層、高位層の3層に分け、分布の割合を全国を1とした割合で大阪府の様子を比較してみると、低位層は1.432、中位層は1.068、高位層は0.821となり、全国に比べ低位層の割合が高い。
- ◆5年間の変化を見ると、連続して低位層の割合が高く、高位層の割合が低い傾向が続いている。



◆平成24年度調査が抽出調査であるため、単純に経年比較することは難しいが、全国平均正答率を1とした場合の大阪府の平均正答率の割合で比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。

中学校数学

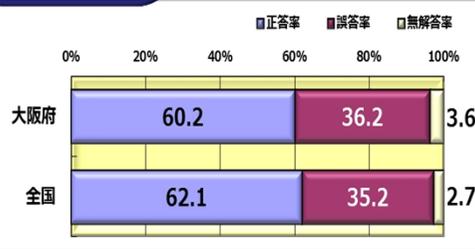
A

区分問題

(大阪府・兵庫県・京都府・奈良県)

平均正答率は60.2%であり、各設問を個別に見ると継続的な課題が見られるものがあり、引き続き定着を図る取り組みを進める必要がある

正答率比較



平均正答率は全国を1.9ポイント下回った

◆ 全国平均正答率が62.1%であるのに対し、大阪府の平均正答率は60.2%であり、1.9ポイント全国を下回った。

対全国比には大きな変化は見られない

◆ 各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国平均正答率を1とした場合の大阪府の平均正答率の割合で比較した。平成24年度調査は抽出調査であるため、単純に経年比較することは難しいが、大阪府の平均正答率の割合は5年間大きな変化は見られない。

無解答率比較

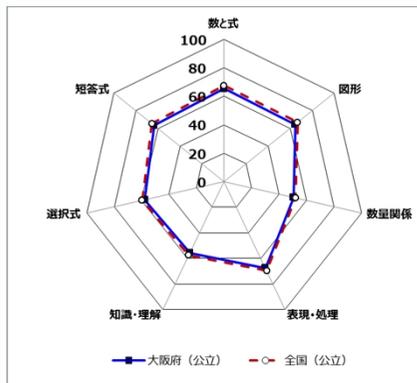


無解答率は全国の状況を0.9ポイント上回った

◆ 無解答率の全国との差を経年比較すると、平成19年度は1.9ポイント、平成20年度は2.1ポイントあったものが、今年度は0.9ポイントとなり、平成20年度以降減少傾向にある。

領域・観点・問題形式別

平成24年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

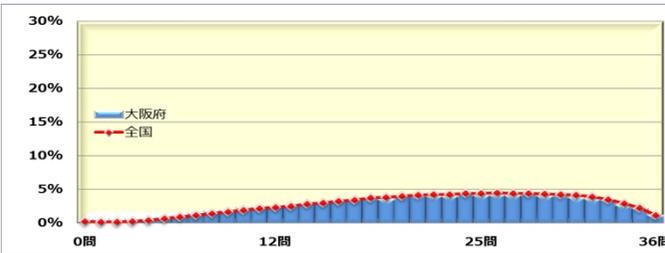
◆ レーダーチャートの描くラインは、全国の状況と同傾向を示している。

◆ 今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「数量関係」の項目でやや低い値を示している。

具体的な課題

- 具体的な事象における2つの数量の関係には、一次関数として捉えられるものがあることを理解すること(一次関数を表した事象を選ぶ)
- 資料を整理した図から最頻値を読み取ること(ボールの入った回数と人数の関係をまとめた図から、入った回数の最頻値を求める)
- 同位角が等しければ2直線は平行であることを理解すること(三角定規による平行線の作図について、正しい記述を選ぶ)

正答数分布



正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆ 全国は26問を頂点とし、大阪府は24問と28問を頂点とするわずかに右上がりの平坦な山型を描いている。
- ◆ 正答数分布を正答数により1/3ずつ低位層、中位層、高位層の3層に分け、分布の割合を全国を1とした割合で大阪府の様子と比較してみると、低位層は1.286、中位層は0.995、高位層は0.936となり、全国に比べ低位層に向かうにしたがって割合が高くなっている。
- ◆ 5年間の変化を見ると、低位層の割合が高い傾向が続いている。



【指導領域別正答率(対全国比)経年比較】



【評価観点別正答率(対全国比)経年比較】



【問題形式別正答率(対全国比)経年比較】



◆ 平成24年度調査が抽出調査であるため、単純に経年比較することは難しいが、全国平均正答率を1とした場合の大阪府の平均正答率の割合で比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。

中学校数学

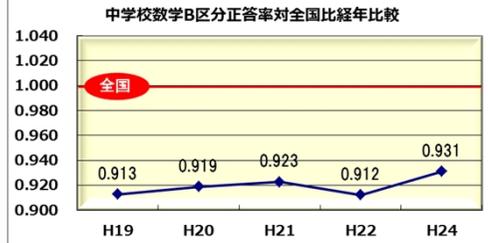
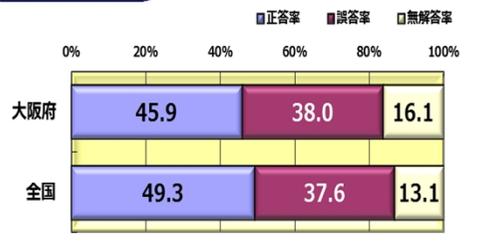
B

区分問題

(注)「表現処理」が「表現・処理」

平均正答率は45.9%であり、数学的に表現したり、数学的に表現された事柄を読み取ったりすることに課題がある。

正答率比較



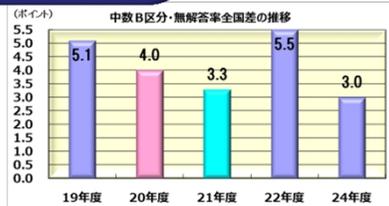
平均正答率は全国を3.4ポイント下回った

◆全国の平均正答率が49.3%であるのに対し、大阪府の平均正答率は45.9%であり、3.4ポイント全国を下回った。

対全国比には大きな変化は見られない

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とした場合の大阪府の平均正答率の割合で比較した。平成24年度調査は抽出調査であるため、単純に経年比較することは難しいが、今年度は0.931となり、前回の0.912をやや上回ったものの、全国との状況との差は依然として大きい。

無解答率比較

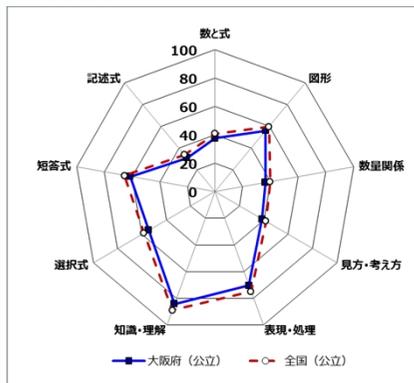


無解答率は全国の状況を3.0ポイント上回った

◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成19年度は5.1ポイント、平成20年度は4.0ポイント、平成21年度は3.3ポイントと差が縮まる傾向にあったが、平成22年度は5.5ポイント上回っており、全国との差が再び広がった。今年度は3.0ポイントに縮まったが、全国との状況との差は依然として大きい。

領域・観点・問題形式別

平成24年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

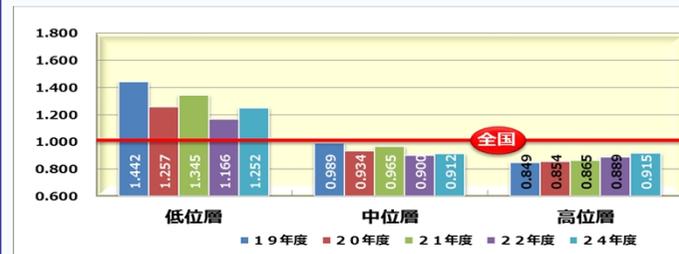
◆レーダーチャートの描くラインは、全国との状況と同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「数と式」「数量関係」「数学的な見方・考え方」「記述式」の項目で低い値を示している。

具体的な課題

- 数学的な結果を事象に即して解釈し、その理由を数学的な表現を用いて説明すること(2つの人工衛星の軌道の長さの差を求める計算から分かることを選び、その理由を説明する)
- 問題解決の方法を数学的に説明すること(長さを求めるための方法を説明する)
- 資料の傾向を捉え判断理由を数学的な表現を用いて説明すること(より遠くへ飛びそうな選手を選びその理由を説明する)
- 数量の関係を数学的に解釈し関係が成り立つ理由を説明すること(正多角形の頂点の数と外角の大きさの関係を説明する)

正答数分布



◆平成24年度調査が抽出調査であるため、単純に経年比較することは難しいが、全国との平均正答率を1とした場合の大阪府の平均正答率の割合で比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。

理科

小学校

平均正答率は57.8%であり、観察・実験の結果などを整理・分析した上で解釈・考察し、説明することなどに課題が見られる。

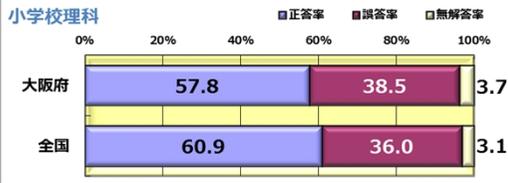
平成24年度 全国学力・学習状況調査 学力調査結果報告

理科

中学校

平均正答率は47.8%であり、観察・実験の結果などを整理・分析した上で解釈・考察し、説明することなどに課題が見られる。

正答率比較

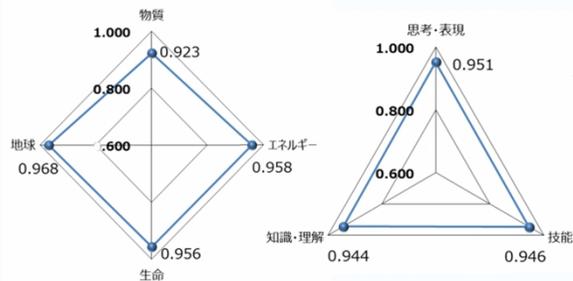


正答数分布



平均正答率は全国を3.1ポイント下回った

- ◆ 全国平均正答率が60.9%であるのに対し、大阪府の平均正答率は57.8%であり、3.1ポイント全国を下回った。
- ◆ 平成24年度調査は抽出調査であり、全国平均正答率は60.8～61.1%、大阪府の平均正答率は56.9～58.8%の幅を有しているため、最も差が大きい場合は-4.2ポイント、逆に最も差が小さい場合は-2.0ポイントとなる。
- ◆ 全国は17問を頂点にし、大阪府は15問を頂点にしたやや右よりの山型を描いている。
- ◆ 大阪府は0～12問の間では、全国よりも分布の割合が高く、15～23問の間では、全国よりも分布の割合が低い。



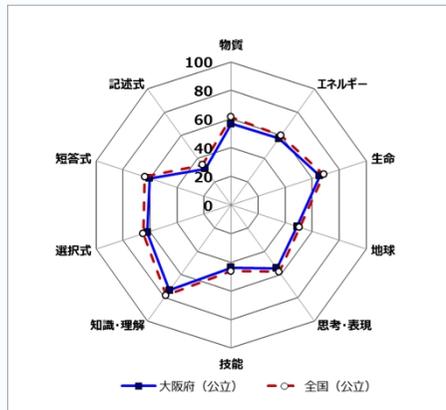
【指導領域別正答率(対全国比)] 【評価観点別正答率(対全国比)]

具体的な課題

- 基本的な見方や概念などに関する知識を身に付けること(受粉の意味の理解)
- 観察・実験の結果を整理し考察すること(天気の様子と気温の変化の関係をグラフなどのデータをもとに分析する)
- 科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりすること(物は水にとけても重さが変わらないことを氷砂糖に適用する)

領域・観点・問題形式別

平成24年度 レーダーチャート

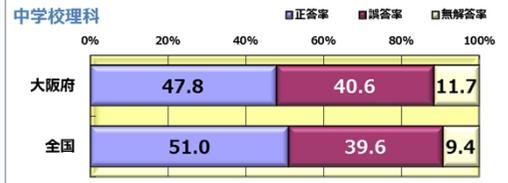


- ◆ 今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「エネルギー」「技能」「関心・意欲・態度」が低い値を示している。

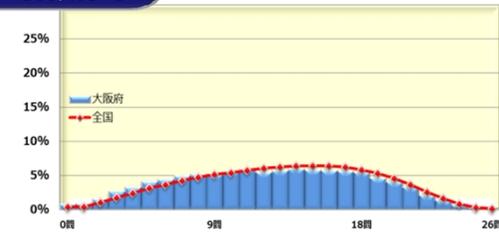
領域・観点別の状況は全国と同傾向

- ◆ 平成24年度調査が抽出調査であるため、単純に経年比較することは難しいが、全国平均正答率を1とした場合の大阪府の平均正答率の割合と比較すると、領域、評価の観点について左のような傾向が見られる。

正答率比較

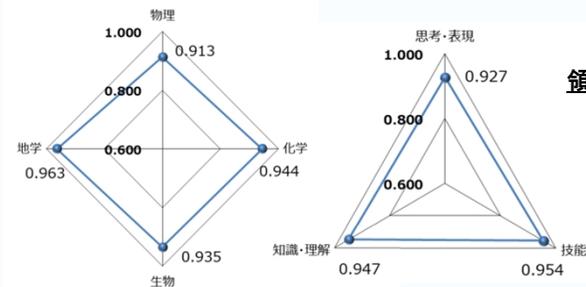


正答数分布



平均正答率は全国を3.2ポイント下回った

- ◆ 全国平均正答率が51.0%であるのに対し、大阪府の平均正答率は47.8%であり、3.2ポイント全国を下回った。
- ◆ 平成24年度調査は抽出調査であり、全国平均正答率は50.9～51.1%、大阪府の平均正答率は47.1～48.5%の幅を有しているため、最も差が大きい場合は-4.0ポイント、逆に最も差が小さい場合は-2.4ポイントとなる。
- ◆ 全国は14問～16問を頂点とし、大阪府は11問と14問を頂点とする平坦な山型を描いている。
- ◆ 大阪府は0～11問の間では、全国よりも分布の割合が高く、12～24問の間では、全国よりも分布の割合が低い。



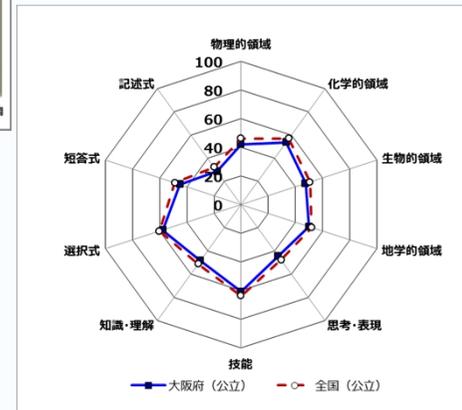
【指導領域別正答率(対全国比)] 【評価観点別正答率(対全国比)]

具体的な課題

- 基礎的・基本的な知識を理解すること(浮力の意味の理解)
- 科学的な根拠を基に説明すること(地層に関する観察記録などを根拠に他者に説明する)
- 実生活のある場面において、理科に関する基礎的・基本的な知識や技能を活用すること(カエルの特徴や成長に応じて飼育の環境を整えた理由を説明する)

領域・観点・問題形式別

平成24年度 レーダーチャート



- ◆ 今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「物理的領域」「短答式」「記述式」が低い値を示している。

領域・観点別の状況は全国と同傾向

- ◆ 平成24年度調査が抽出調査であるため、単純に経年比較することは難しいが、全国平均正答率を1とした場合の大阪府の平均正答率の割合と比較すると、領域、評価の観点について左のような傾向が見られる。

◆大阪の子どもたちの様子 (公立小・中学校) - 児童・生徒質問紙調査より - No.1

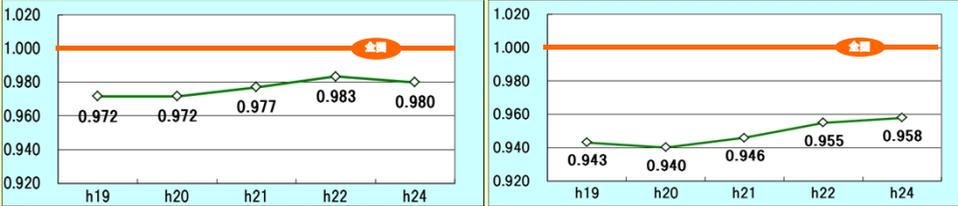
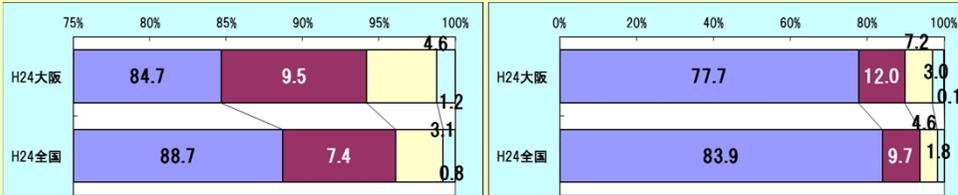
◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

1 朝ごはん

Q: 朝食を毎日食べていますか?

・小・中学校ともに、毎日朝食を食べている児童・生徒の割合は、全国状況を下回る
・中学校においては、対全国比は増加傾向にある

小学校 している どちらかといえば、している あまりしてはいない 全くしてはいない その他・無回答 中学校



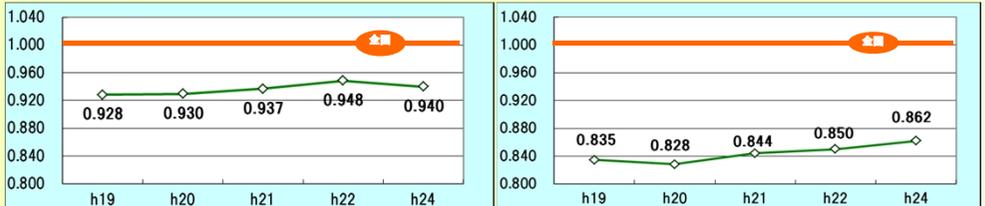
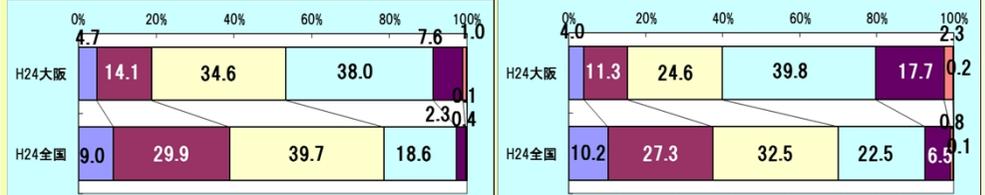
「している+どちらかといえば、している」(対全国比)

2 起床時刻

Q: 普段(月～金曜日)、何時ごろに起きますか?

・小・中学校ともに、起床時刻は全国の状況に比べて遅い
・午前7時30分までに起きる児童・生徒の割合は、中学校においてはわずかではあるが増加傾向にある

小学校 午前6時より前 午前6時～午前6時30分 午前6時30分～午前7時 午前7時～午前7時30分 午前7時30分～午前8時 午前8時以降 その他・無回答 中学校



「午前7時30分までに起きる」(対全国比)

3 就寝時刻

Q: 普段(月～金曜日)、何時ごろに寝ますか?

・小・中学校ともに、就寝時刻は全国の状況に比べて遅い
・中学校においては、午後11時までに寝る生徒の割合が、わずかに増加傾向にある

小学校 午後9時より前 午後9時～午後10時 午後10時～午後11時 午後11時～午前0時 その他・無回答 中学校 午後9時より前 午後9時～午後10時 午後10時～午後11時 午後11時～午前0時 その他・無回答



「午後10時までに寝る」(対全国比)

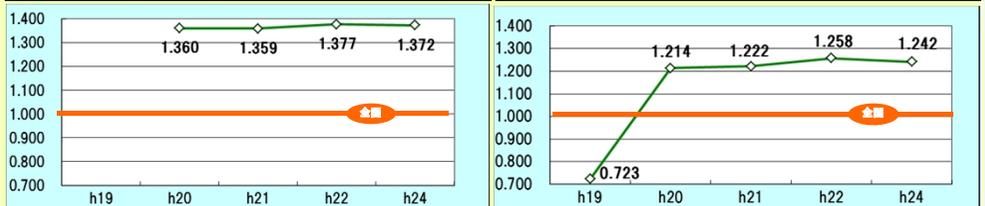
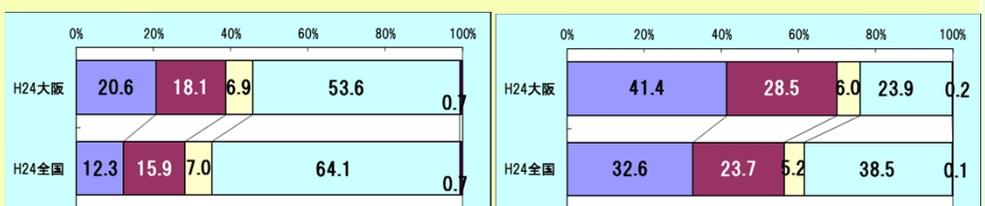
「午後11時までに寝る」(対全国比)

4 携帯電話の使用

Q: 携帯電話で通話やメールをしていますか?

・携帯電話で通話、メールをする児童・生徒の割合は、全国の状況を大きく上回る
・小・中学校ともに、携帯電話の保有率が全国よりも高い

小学校 ほぼ毎日している とときどきしている 全く、または、(ほとんど)してはいない 携帯電話を持ってはいない その他・無回答 中学校



「している+ときどきしている」(対全国比)

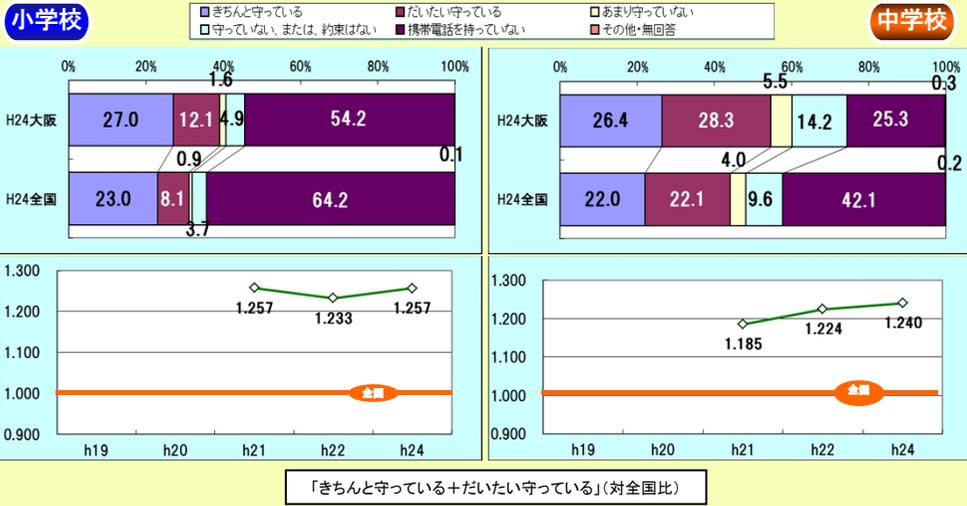
◆大阪の子どもたちの様子 (公立小・中学校) - 児童・生徒質問紙調査より - No.2

◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

5 携帯電話の約束

Q: 携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っていますか?

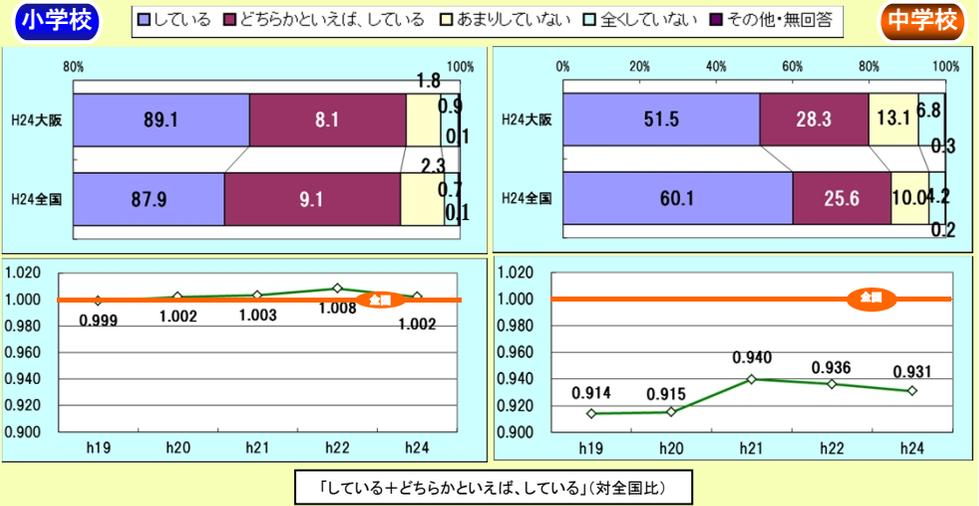
・携帯電話の使い方についての家の人との約束を守っている児童・生徒の割合は、全国の状況を上回るが、大阪府の子どもたちは、もともと携帯電話の保有率が高い



6 学校の宿題

Q: 家で学校の宿題をしていますか?

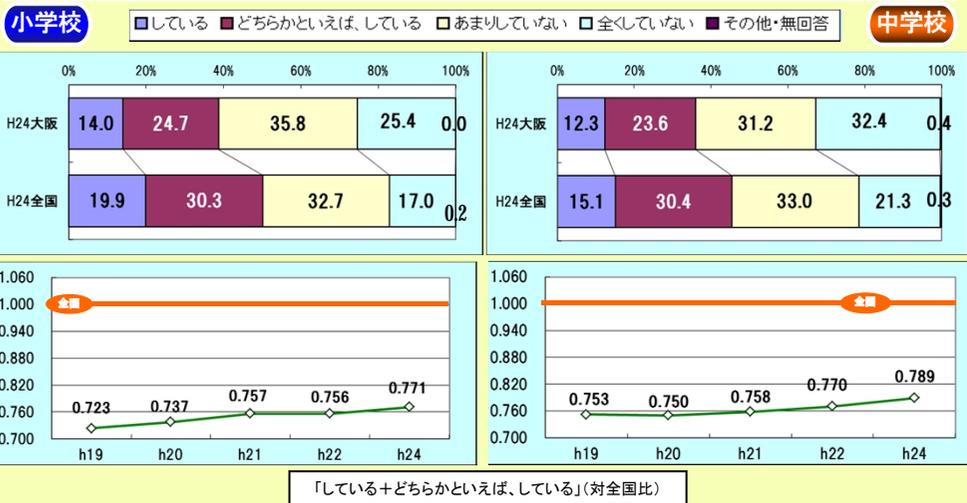
・学校の宿題をきちんとする割合は、小学校において全国状況を上回るが、中学校においては下回っている



7 授業の復習

Q: 家で学校の授業の復習をしていますか?

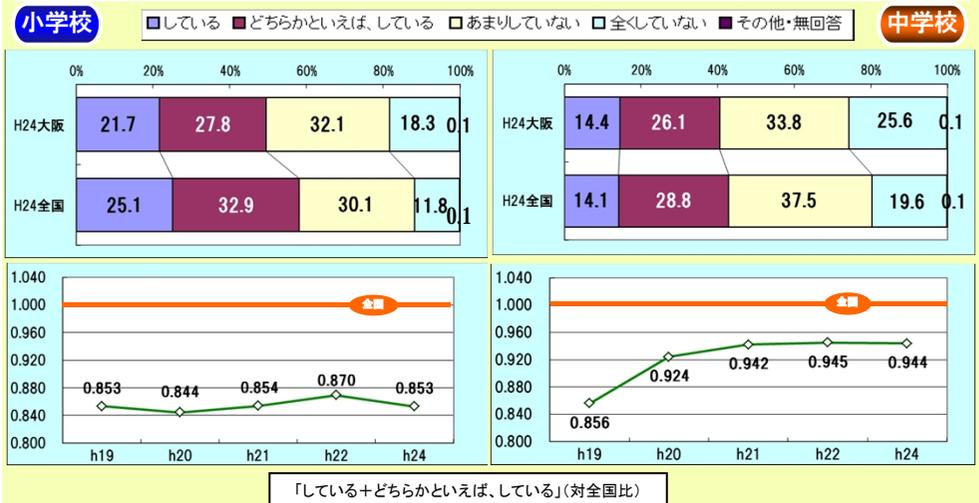
・家で学校の授業の復習をしている児童・生徒の割合は、小・中学校ともに全国の状況を下回っている
・小・中学校ともに、対全国比はわずかに増加している



8 自主的・計画的な家庭学習

Q: 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか?

・自主的・計画的に家庭学習に取り組んでいる児童・生徒の割合は、全国の状況を下回る
・小・中学校ともに対全国比は増加傾向にある

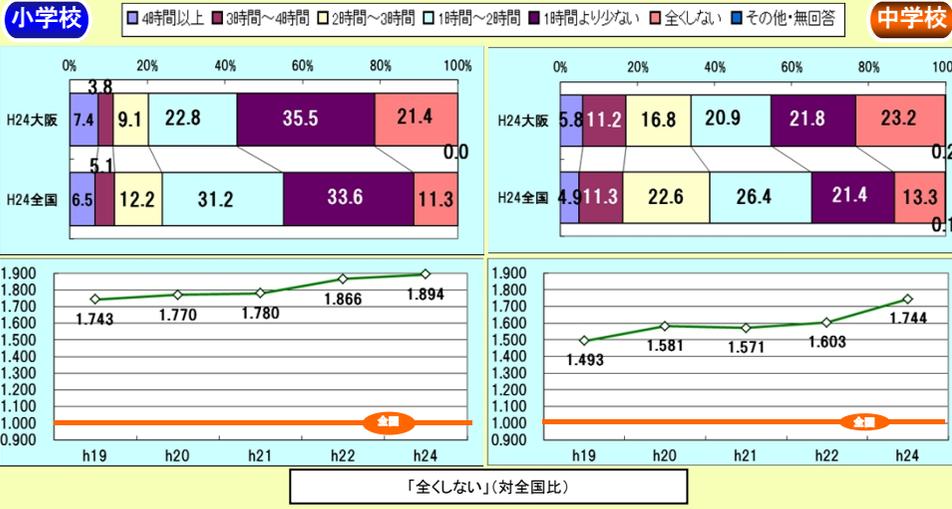


◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

9 休日の家庭学習

Q: 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか?

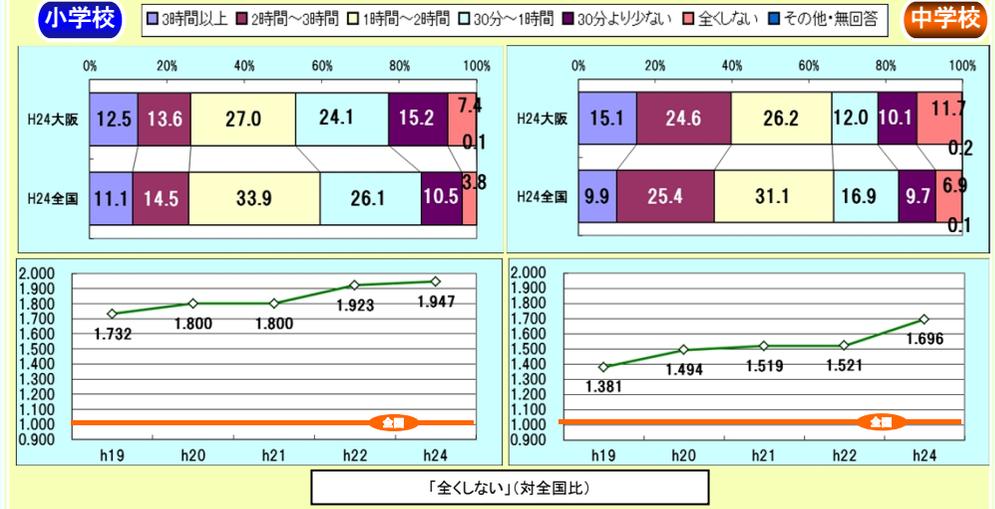
・休日に家庭学習をしない児童・生徒の割合は、全国の上回る
・小・中学校ともに、対全国比は増加傾向にある



10 1日あたりの勉強時間

Q: 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか?

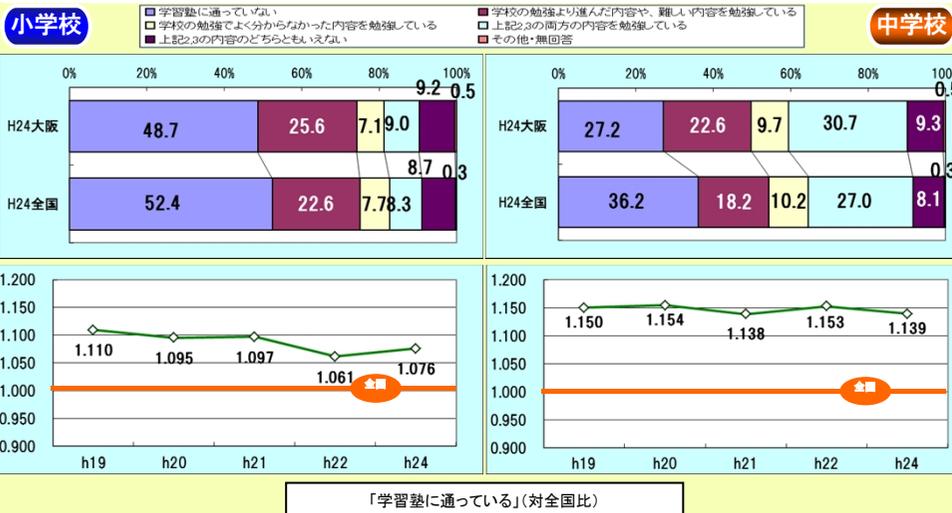
・普段、家庭学習に2時間以上取り組んでいる児童・生徒の割合と、全く取り組まない児童・生徒の割合がともに全国の上回る



11 学習塾等での勉強

Q: 学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしていますか?

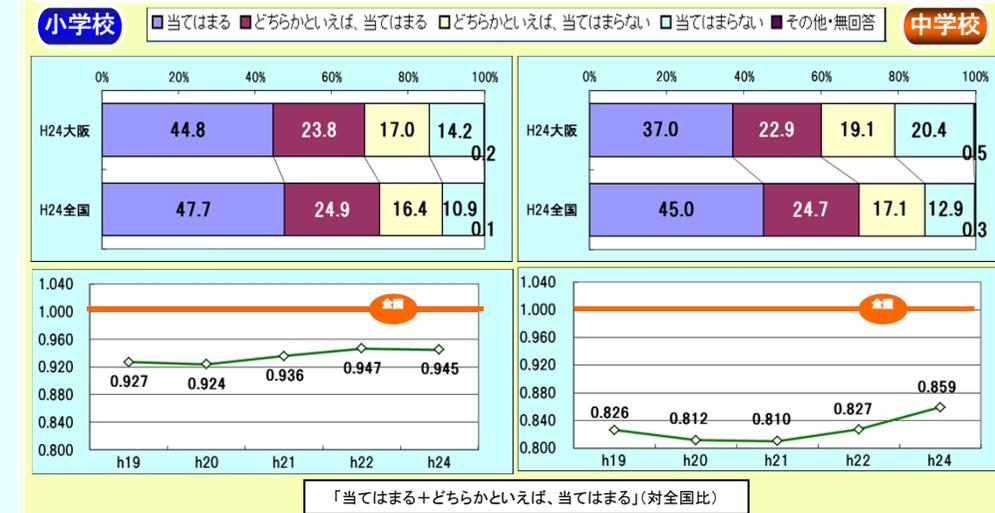
・小・中学校ともに、通塾率は全国の上回る



12 読書の好き嫌い

Q: 読書は好きですか?

・読書の好きな児童・生徒の割合は、全国の上回る
・中学校においては、対全国比は増加傾向にある

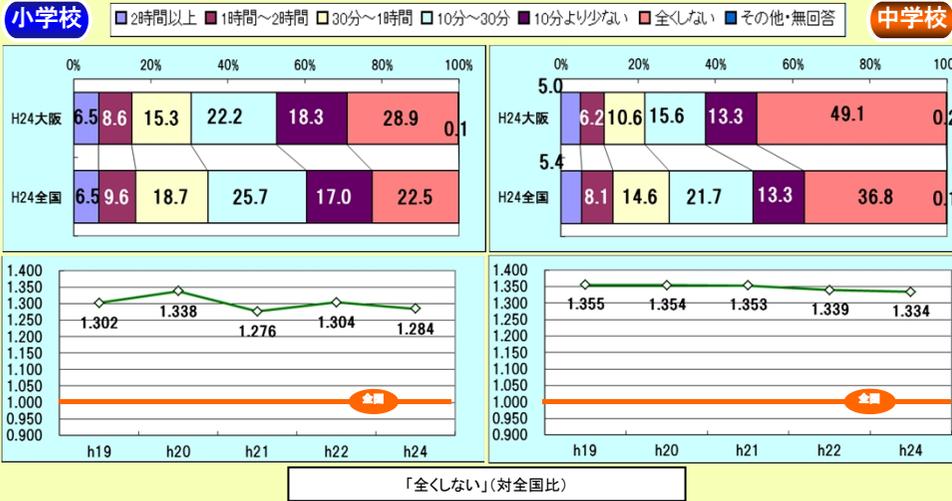


◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

13 読書の時間

Q: 家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか?

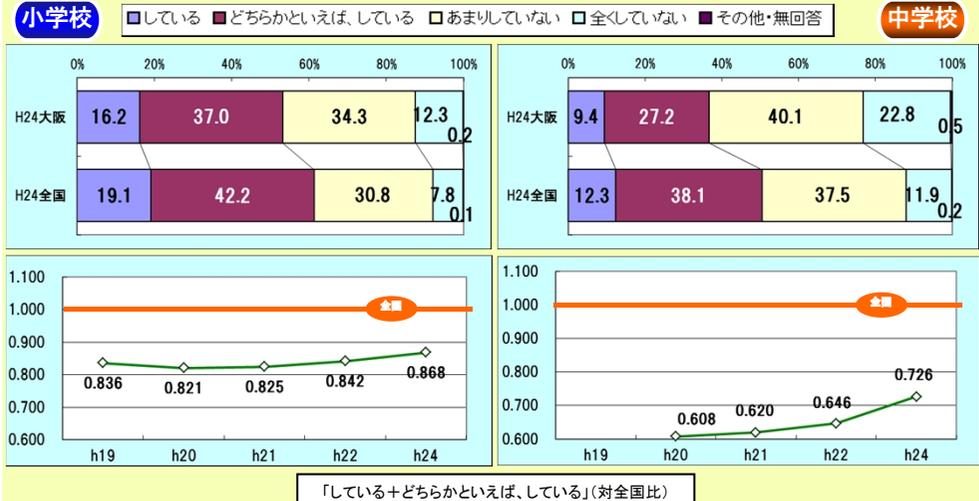
・普段、読書を全くしない児童・生徒の割合は、小・中学校とも全国の状況を上回る
・読書習慣の身に付いていない児童・生徒の割合が高い



14 国語の授業について

Q: 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか?

・国語の授業で、自分の考えを話したり、書いたりしていると回答した割合は、小・中学校ともに全国を下回る
・小・中学校ともに、対全国比はわずかに増加傾向にある

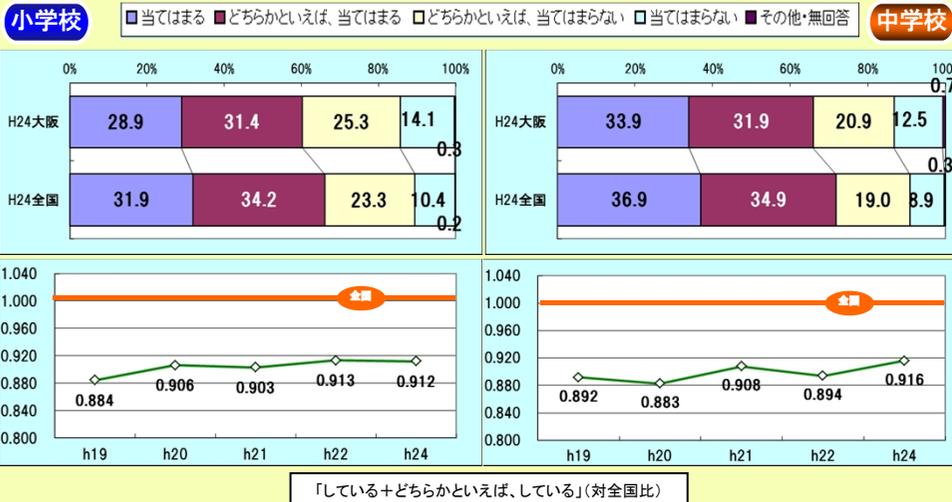


15 算数・数学の授業について

Q: 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか? (小学校)

・算数・数学の学習内容を、普段の生活や将来のことに結び付けて意義付けている児童・生徒の割合は、全国の状況を下回る

Q: 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか? (中学校)

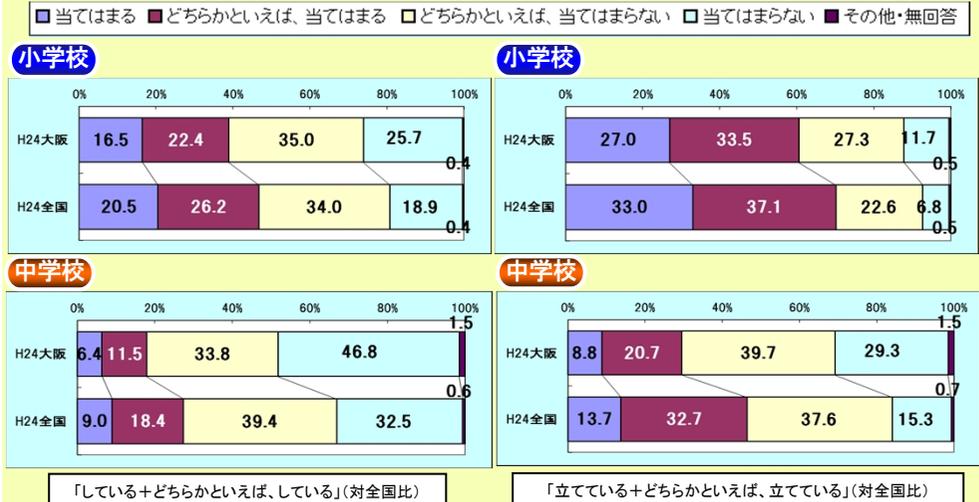


16.17 理科の授業について

Q: 理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか? (小・中学校)

・小・中学校ともに、予想をもとに観察や実験に取り組み、自分の考えを説明したり発表する児童・生徒の割合は、全国の状況を下回る

Q: 理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか? (小・中学校)



◆大阪の学校の状況 (公立小・中学校) - 学校質問紙調査より -

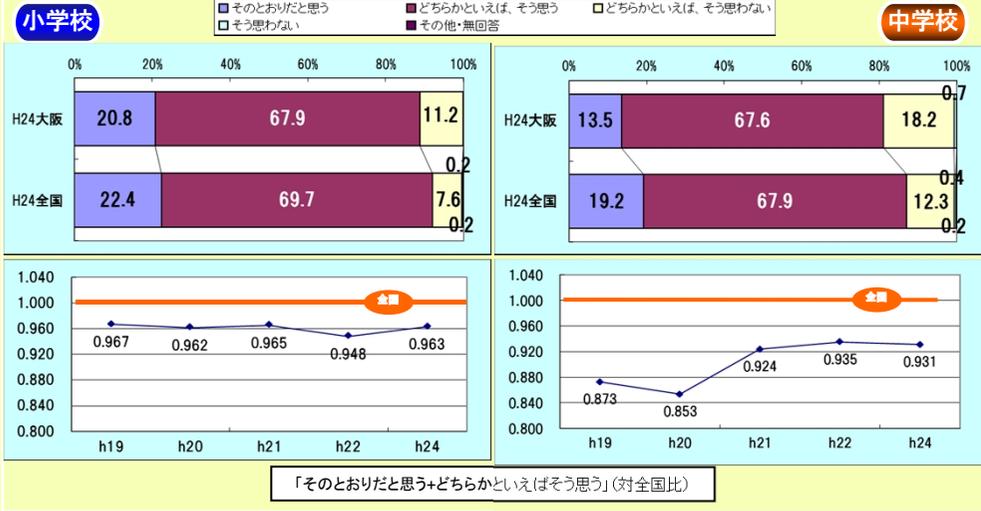
No. 1

◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

1 学習への熱意

Q: 熱意を持って勉強していると思いますか?

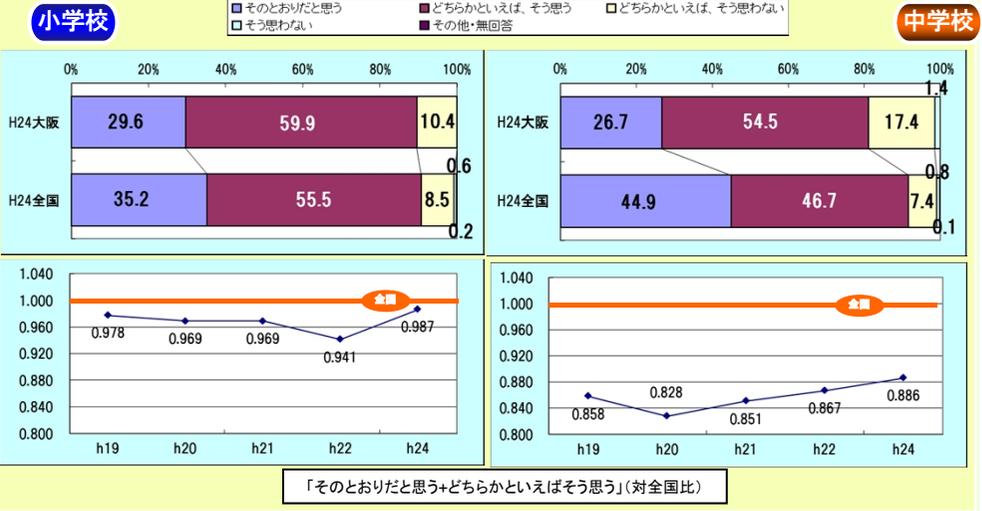
・「熱意を持って勉強している」と捉えている学校の割合は、小・中学校ともに、全国の状況に比べて低い



2 授業中の落ち着き

Q: 授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか?

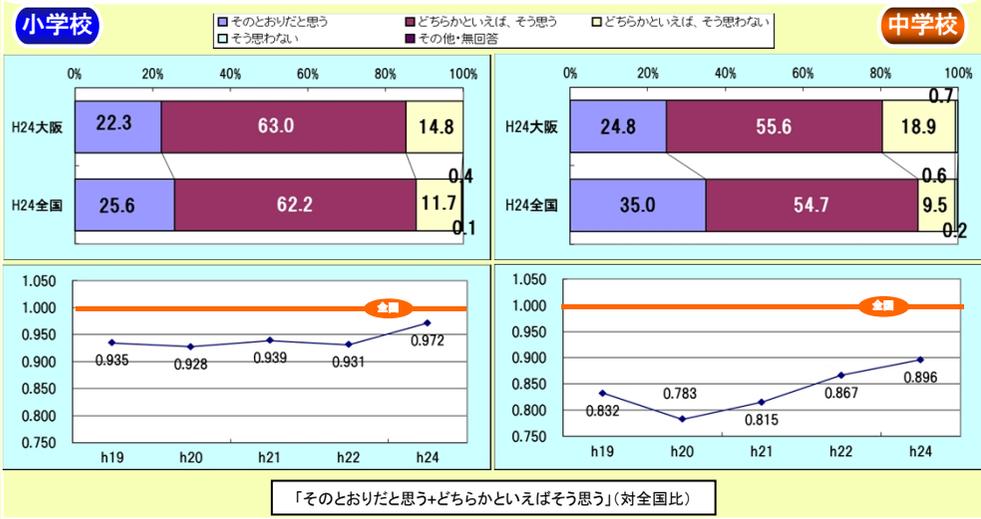
・「授業中私語が少なく、落ち着いている」と捉えている学校の割合は、小・中学校ともに全国の状況に比べて低い
・中学校においては、平成20年度以降、対全国比は増加傾向にある



3 礼儀正しさ

Q: 児童・生徒は礼儀正しいと思いますか?

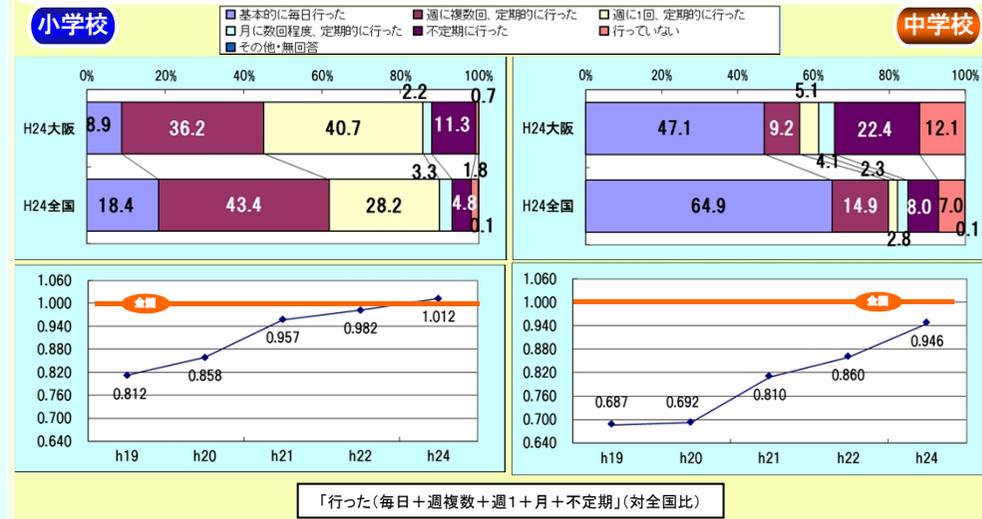
・「礼儀正しい」と捉えている学校の割合は、小・中学校ともに、全国の状況に比べて低いが、増加傾向にある



4 朝の読書

Q: 一斉読書の時間を設けていますか?

・一斉読書に取り組んでいる学校の割合は、小学校で全国の状況を上回っており、中学校でも対全国比は増加傾向にある



◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

5 放課後の活用

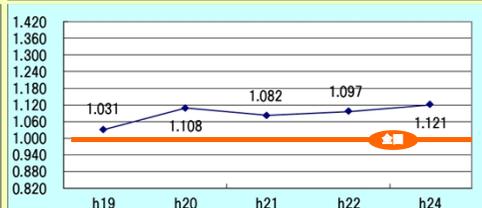
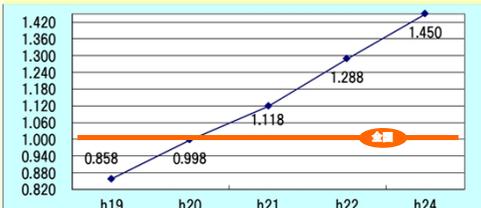
Q: 補充的な学習サポートを実施していますか?

・放課後の学習サポートの実施状況は、小・中学校ともに全国の状況を上回っている
・特に小学校においては、対全国比は大きく伸びている

小学校

□ 週に4回以上行った □ 週に2~3回行った □ 週に1回行った □ 月に数回程度行った
■ 年に数回程度行った ■ 行っていない ■ その他・無回答

中学校



「行った」の合計(対全国比)

6 授業サポート

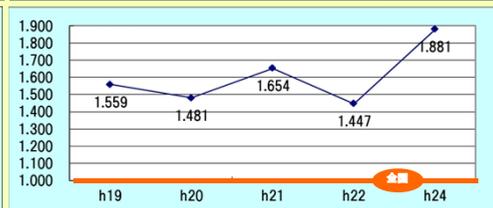
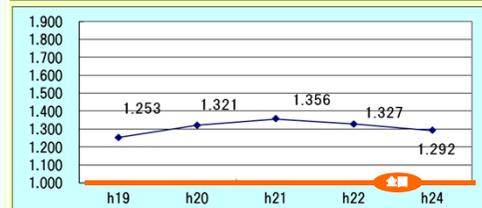
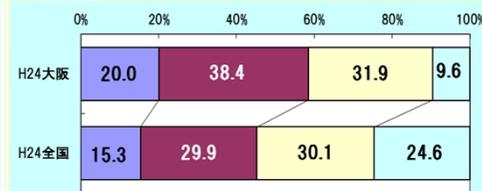
Q: ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか?

・ボランティア等による授業サポートの実施状況は、小・中学校ともに全国の状況を上回っている
・小・中学校ともに継続して取組が進められている

小学校

□ よく行った □ どちらかといえば、行った □ あまり行っていない □ 全く行っていない ■ その他・無回答

中学校



「よく行った+どちらかといえば、行った」(対全国比)

7 PTAや地域の人参加

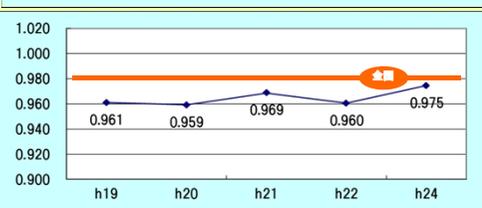
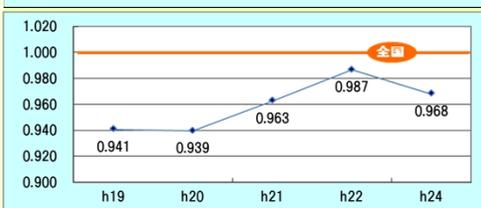
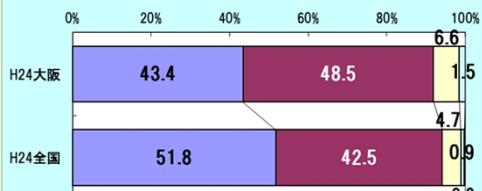
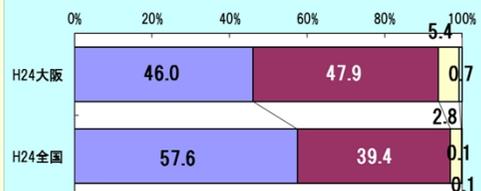
Q: 学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか?

・PTAや地域の人参加の学校が行う教育活動への参加状況は全国の状況を下回っている

小学校

□ よく参加してくれる □ 参加してくれる □ あまり参加してくれない □ 全く参加してくれない ■ その他・無回答

中学校



「よく参加してくれる+参加してくれる」(対全国比)

8 校内研修

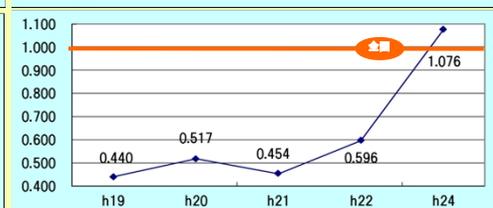
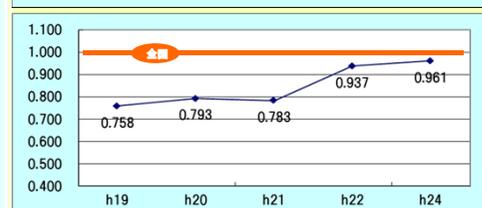
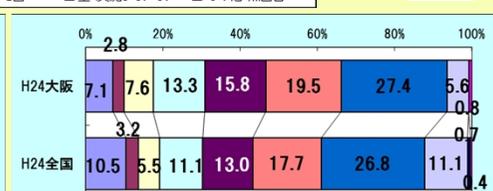
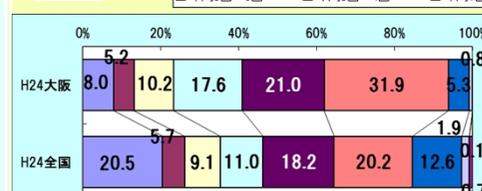
Q: 授業研究を伴う校内研修を前年度、何回実施しましたか?

・中学校においては授業研究を伴う校内研修の実施回数が7回以上の割合が全国の状況を上回っている
・小・中学校とも対全国比は増加傾向にある

小学校

□ 年間15回以上 □ 年間13回~14回 □ 年間11回~12回 □ 年間9回~10回 □ 年間7回~8回 □ 年間5回~6回 □ 年間3回~4回 □ 年間1回~2回 ■ 全く実施していない ■ その他・無回答

中学校



「7回以上実施している」(対全国比)

◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

9 就学援助

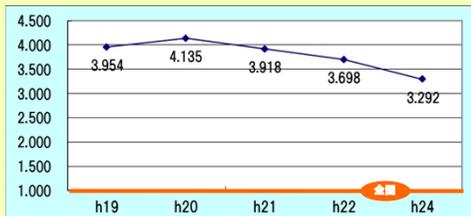
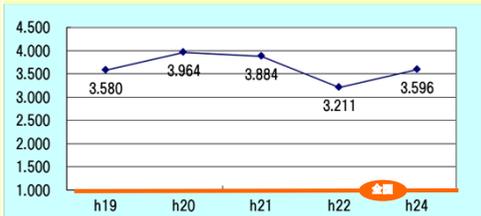
Q：就学援助を受けている児童・生徒の割合は？

・小・中学校ともに、就学援助を受けている児童・生徒の在籍率の高い学校の割合が、全国の状況を大きく上回っている

小学校

■ 在籍していない ■ 5%未満 □ 5%~10% □ 10%~20% ■ 20%~30% ■ 30%~50% ■ 50%以上 □ その他・無回答

中学校



「就学援助を受けている児童が在籍している割合が30%以上」(対全国比)